



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院歯学研究科

歯学部

東北大学病院附属

歯科医療センター

NEWS LETTER

第4号 2009.12



研究不正に関する報告並びにお詫び

本研究科に懸かる研究不正問題につきまして、本日懲戒処分が行われたことを御報告いたします。歯学研究科はこの処分を厳粛に受け止め、このような大きな問題を引き起こしたことに對し衷心より反省しております。今後、二度とこのような問題を発生させないよう組織一丸となり努力を続けてまいりますとともに、教育、研究、臨床を通じて、より一層、社会に貢献する所存でございます。

皆様の信頼を回復することができるよう全力で努めてまいりますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

平成21年12月4日

東北大学大学院歯学研究科長

笹野 高嗣

<http://www.ddh.tohoku.ac.jp/>

外来移転後の東北大学病院歯科部門の充実へ向けて

歯科医療センター長 佐々木 啓一



ただ今、外来移転のまっただ中ではありますが、外来移転後の東北大学病院歯科部門についてご報告させていただきます。

歯科医療センターの移転により、旧医学部附属病院、歯学部附属病院、そして加齢医学研究所附属病院が、組織上も医療法上も統合された、真の東北大学病院が誕生します。東北大学病院は、まさしく東北地方の中核病院であり、高次医療、先進医療の提供の場

であります。また病院を構成する医学系研究科、歯学研究科、加齢医学研究所、さらには薬学研究科や医工学研究科などの関連部局の教育、研究の場でもあります。私ども歯科部門も、この任を担います。

具体的には、特定機能病院としての高次医療機関としての機能と、高次医療機関におけるプライマリケアを通した学部臨床実習、歯科臨床研修を含めた教育機能を、より前面に押し出した運営が望まれます。さらに入院患者の周術期の口腔ケアをはじめとする院内への歯科医療の提供もこれまで以上に必要となります。もちろんこれらの機能を果たしながら各科・部における専門医育成を行っていくことは言うまでもありません、統合という大きな転機ではありますが、歯学部附属病院が開設された時以来の大きな飛躍のチャンスと捉え、教職員一同で力を合わせてよりよい環境作りに向かっていければと考えております。ご理解、ご協力のほど、宜しくお願いいたします。

東北大学病院歯科部門の使命

• 教育

歯科医師の養成：学部臨床実習（大学設置法）
歯科医師臨床研修

高度専門職業人としての歯科医師（専門医）の養成
専門職業人としての歯科医療従事者
（歯科衛生士・歯科技工士等）の養成

• 研究

臨床研究の推進：新技術・新材料の開発

• 臨床

特定機能病院：高次医療・先進医療の提供

中核病院：地域歯科医療への貢献・地域連携

病院歯科：院内での医療連携・院内患者の口腔管理

新外来診療棟の診療について

歯科医療センター長特別補佐 五十嵐 薫

本号が皆様のお手元に届く頃には、星陵町1-1での診療が始まっているはずですが、ここでは東北大学病院歯科部門が位置する新外来棟へのアクセスと、新しい診療の流れについてご説明いたします。

左図に示しますように、新外来棟は東北



大学病院の既存外来棟と新病棟の間に位置し、木町通りに面しています。新外来棟へは、国道48号線に面した病院正面玄関から入る正門ルートと、北6番丁通りに面した病院北門から入り、ホスピタルモールを経由する北門ルートの2つの経路がありますが、木町通りから直接新外来棟に入ることはできません。なお、歯学部のある立体駐車場は、医科歯科を問わず東北大学病院を受診する患者様用の駐車場として利用されます。

統合後は、右図に示したように診療の流れも大きく変わります。①初診の患者様は、東北大学病院の既存外来診療棟1階ロビーでカルテとIDカードを作成します。特定機能病院となるため、紹介状をお持ちでない場合は、3,150円が徴収されます。予約再来の患者様は③の新外来診療棟の各フロアに移転した診療科で受け付けます。②歯科部門は新外来診療棟の3～5階に配置されています。患者様はエレベータで各診療科・部・室に向かいます。③各フロアの受付にはクラークが配置され、患者様の到着確認を行うとともに、電話応対にあたります。④診療を行います。各種検査には、統合された放射線部、検査部、病理部等の中央診療部門を利用します。なお、エックス線検査は基本的にフィルムレスとなります。⑤各フロアの受付に計算窓口がありますので、診療後はそこで料金のお知らせ、再来予約票、処方箋、検査指示書等を患者様にお渡しします。⑥料金の支払いには、既存外来棟1階の自動支払機を利用します。⑦移転後は薬剤部も統合され、基本的に院外処方になります。予め調剤薬局に院外処方箋をFAX送信しておき、帰宅途中などに処方箋と引き換えにお薬を受け取ることができます。

このように、患者様の動線は医科と同様となり、カルテやエックス線写真を持ち歩くこともありません。また、移転と同時に診療支援システムも更新され、より効率的で有機的な診療が期待できます。各フロア内も、患者動線とスタッフ動線が区別され、新規42台を含む138台のユニットがプライバシーに配慮して配置されています。その他の大きな変更点として、感染対策の徹底がなされます。滅菌器材はパーヤリマー・ファイルに至るまで病院材料部で一括管理され、滅菌バックで供給されます。また、印象の感染予防対策もより充実させました。

移転後の患者様の病院紹介連携システムですが、病院の地域医療連携センター（WITH）にて、予約新患登録システムを構築中です。準備が整いましたら、各科の新患受付日および担当医表と併せてHPに掲載致します。

以上、新外来棟歯科部門へのアクセスと新しい診療の流れについて概説いたしました。来年1月の診療開始には、患者様やご紹介をいただく先生方にご迷惑をおかけしないよう、シミュレーションを実施するなど十分な準備をして臨む所存です。ご理解とご支援の程何卒よろしくお願い申し上げます。



歯原性腫瘍の形成に関わる エナメル基質の解析とその応用

小児口腔発達歯科学分野 福本 敏

当研究室では、歯の発生に関わる遺伝子のスクリーニングを行い、その過程の中でエナメル質形成に関わる分子メカニズムの解明をおこなってきた。エナメル質の形成には、エナメル質の形成に関わるエナメル芽細胞の分化と、エナメル芽細胞から分泌されるエナメル基質が重要な役割を演じている。エナメル基質にはアメロジェニン、アメロラスチン（シースリン）、エナメルリンといった分子が含まれ、それぞれがエナメル質形成に対して様々な分子機能を有していることが分かってきた。これらの分子は、歯のみならず骨の形成や、骨の吸収に関わる破骨細胞の形成抑制に関与することが知られており、歯周病の治療に用いられるエムドゲイン中の主要成分が、これらエナメル基質の1つであるアメロジェニンであり、骨の再生に関わっている。

我々は、エナメル基質の中のアメロラスチンに着目し、その解析を進めてきた。アメロラスチンは、1996年に初めて同定された遺伝子であり、その遺伝子欠損マウスの解析から、エナメル質形成に必須の分子であることが明らかとなっている。本マウスは、重度のエナメル質形成不全症を示し、エナメル質の形成に関与するエナメル芽細胞の増殖と、アメロジェニンの合成に異常が認められた。通常エナメル芽細胞は、その分化過程において増殖を停止し、エナメル基質を分泌するが、アメロラスチンが存在しない状況では、エナメル芽細胞の増殖が停止せず、これらマウスの約

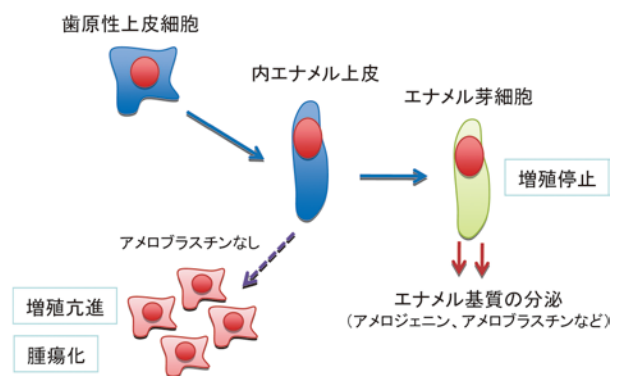


図1 エナメル芽細胞分化と歯原性腫瘍形成のメカニズム (J Cell Biol 2004, 167(5):973-983より)

30%において、顎骨内に歯原性腫瘍を生じる(図1)。このことから、アメロラスチンはエナメル質形成のみならず、歯原性腫瘍の抑制分子としての機能が明らかとなった。そこで、アメロラスチンが適切に存在していれば、歯原性腫瘍を生じなかったのではないかと考え

研究を進めた。我々の仮説は正しく、エナメル上皮腫の細胞にアメロラスチンを過剰発現させると、細胞周期を調整するp21やp27の発現を誘導し、その細胞増殖を抑制することに成功した(図2)。また近年、世界の多くの研究室から、アメロラスチンの遺伝子変異が、歯原性腫瘍の患者から同定されるようになり、このアメロラスチンが、口腔領域の腫瘍の治療に応用できる可能性が出てきた。このように、歯の発生や再生研究は、単に組織再生のみならず、今までブラックボックスであった歯原性腫瘍の発生メカニズムの解析と、その治療に応用できる研究として、さらに重要性を増してきていると考えられる。

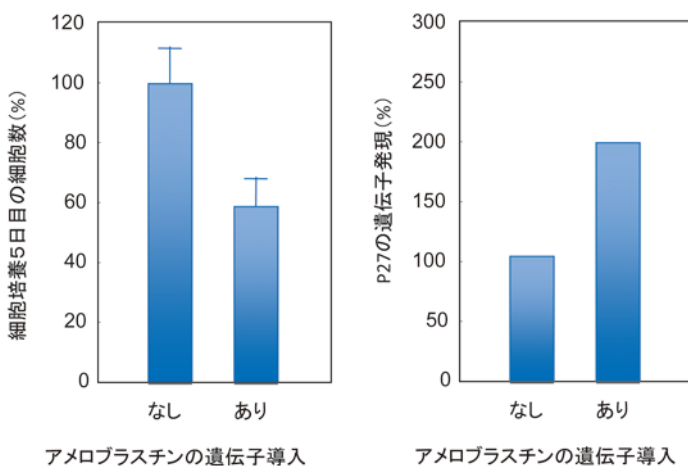


図2 ヒトエナメル上皮腫由来細胞におけるアメロラスチン遺伝子導入の効果 (左) 細胞培養5日目の細胞増殖、(右) 細胞増殖を抑制させるp27の発現 (J Biol Chem 2009, 284(40):27176-27184より改変)

第56回東北大学歯学会のご案内

第56回東北大学歯学会は、インターフェース口腔健康科学に関する研究発表を行う予定です。一般口演は予定しておりませんので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

- 1. 日時：平成22年2月19(金) 15時30分～
- 2. 会場：東北大学歯学部B棟1階講義室
- 3. 演題：「インターフェース口腔健康科学研究紹介」(4演題を予定)

掲 示 板

詳細は歯学研究科ホームページ(HP)をご確認ください。http://www.ddh.tohoku.ac.jp/

これからの主な行事

- 平成21年
 10月10日(出)・11日(日) 東北大学ホームカミングデー
 10月27日(火) 医学部・歯学部合同慰霊祭
 10月29日(休)・30日(金) 第131回日本歯科保存学会
 会場：仙台国際センター、大会長：小松正志
 12月下旬 歯科医療センター診療制限(外来棟移転のため)
 12月28日(月) 仕事納め
- 平成22年
 1月4日(月) 仕事始め
 1月23日(出) 一般選抜試験(附属歯科技工士学校)
 2月25日(休)・26日(金) 個別学力試験(学部)
 3月25日(休) 東北大学 学位授与式
 4月6日(火) 東北大学入学式

これからの講習会などの予定

- 詳細が決定次第、HPに掲載致しますので、参照して下さい。
- 平成22年度がん口腔ケア特別研修 (歯科衛生士・看護師等対象)
 - 平成22年度口腔がん健診特別研修 (歯科医師等対象)
 - 乳幼児口腔機能育成研修 (乳幼児・小児の育成に関わる方を対象)
 - 免許状更新研修 (小中高等学校教員を対象)
 - 理科系教員指導力向上研修 (中学・高校の理科系教員等を対象)
 - みやぎ県民大学 (一般の方対象)



東北大学名誉教授の日沼頼夫先生(ウイルス学)が今年度の文化勲章を受章しました。

日沼先生は、エプスタイン・バー(EB)ウイルスと成人T細胞白血病(ATL)ウイルスの研究において数多くのすぐれた業績を残し、国内外で高い評価を受けています。感染経路を解明し、予防の基盤確立にも貢献するなど、ウイルス学研究で多くの独創的な業績を上げられました。昭和61年に「文化功労賞」、平成元年に「日本学士院賞恩賜賞」、そして平成21年に「文化勲章」を受賞されました。

略歴

昭和25年東北大学医学部卒業、旧制大学院修了後、同大学医学部助手。昭和35年東北大学医学部助教授、同40年米国ロズウエルパーク記念研究所客員研究員、同43年東北大学歯学部教授、同46年熊本大学医学部教授。昭和55年京都大学ウイルス研究所教授就任、同63年退官。京都大学名誉教授、熊本大学名誉教授、東北大学名誉教授(平成15年)として現在に至る。

日沼頼夫先生文化勲章受章 記念講演会並びに受章祝賀会のご案内

- 記念講演会
 日 時：平成22年1月20日(水) 午後4時から
 会 場：民隆会館 記念ホール
 仙台市青葉区広瀬町3-34
 (電話：022-227-2721)
- 受章祝賀会：午後6時から
 会 場：民隆会館 記念ホール
- 祝賀会会費：8,000円
 祝賀会に参加希望の方は12月22日(火)までに会費を添えて、歯学研究科庶務係(内線8244)までお申込みください。

歯学研究科大学院生募集

募集人員：博士課程：47名、修士課程：6名
 出願期間：1次募集：7月下旬、2次募集：12月上旬
 試験日：1次募集：8月下旬、2次募集：12月下旬
 今後の募集についてはHPを参照して下さい。
 HP：http://www.ddh.tohoku.ac.jp/
 ※申請手続き等問い合わせ先
 連絡先：東北大学大学院歯学研究科教務係
 TEL：022-717-8248 FAX：022-717-8279

平成23年度歯科医師臨床研修募集

(最新情報は平成22年4月ごろ更新されますのでHPを参照して下さい。)
 HP：http://www.ddh.tohoku.ac.jp/
 ※申請手続き等問い合わせ先
 東北大学病院附属歯科医療センター 専門職員(人事担当)
 TEL：022-717-8246 FAX：022-717-8279
 E-mail：den-jin@bureau.tohoku.ac.jp

平成21年度口腔がん特別研修コースの実施

受入人数：40名程度
 研修場所：東北大学病院・附属歯科医療センター・歯学研究科
 期 間：平成22年1月24日(日)・31日(日)10時から16時まで
 費 用：無料
 応募方法：履歴書(HPのリンクからダウンロードしてお使い下さい)を郵送にて提出
 応募期間：平成21年12月25日(金)必着
 選 考：提出書類から総合的に選抜する
 応 募 先：東北大学大学院歯学研究科教務係
 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
 TEL：022-717-8248 FAX：022-717-8279
 HP：http://www.ddh.tohoku.ac.jp/

人事(平成21年8月～)

大学役職を離れた方

8月 歯科保存学分野	助教	安部 敏	辞職
8月 薬剤部	薬剤師	田代 恵理	辞職

大学役職に就かれた方

7月 口腔器官構造学分野	教授	市川 博之	採用
7月 顎口腔矯正学分野	准教授	出口 徹	昇進
8月 矯正歯科	講師	福永 智広	採用
8月 薬剤部	薬剤師	鈴木 千尋	採用
10月 地域イノベーション 創出研究開発事業	助教	猪飼 純代	採用
10月 口腔器官構造学分野	技術一般職員	木下 昇吾	採用

新任教授紹介

市川博之 教授(大学院歯学研究科 口腔機能形態学講座 口腔器官構造学分野)



1957年生まれ。現在52歳、兵庫県出身。大阪大学歯学部を卒業後、同大学において学位を取得し、口腔解剖学第一講座助手として口腔における末梢神経の分布に関して研究を行いました。岡山大学歯学部では歯を含めた全身解剖学の講義や実習を担当しながら、三叉神経節細胞をはじめとする知覚性神経細胞の分布や発生を明らかにしてきました。本年7月、東北大学大学院歯学研究科に教授として転任し現在に至っています。

第48回NPO法人日本口腔科学会及び第36回(社)日本口腔外科学会北日本地方会のお知らせ

第48回NPO法人日本口腔科学会北日本地方会会長
 シンポジウム：「インプラント予後不良例を乗り越えるために」
 会場：ネ！ットU仙台市情報・産業プラザ(AERビル5階、6階)

川村 仁
 会期：平成22年5月21日(金)・22日(土)
 演題申込期間：平成21年12月14～29日必着

編集後記

平素からNews Letterにご支援いただき、誠にありがとうございます。無事に第4号を発刊することができました。師走の気忙しい毎日ですが、歯科部門の外来移転も順調に進み、東北大学病院の新しいスタートを迎える新年ももうじきです。本号では、歯科部門移転後の新外来診療棟の診療にスポットを当て、紙面を通して読者の皆様にご紹介させて頂きました。情報発信は、読者の皆様と大学を結び架け橋であり、発展の原動力と考えております。編集委員一同、読者の皆様との絆を大切に、より良い紙面作りに努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。ご意見並びに情報等がございましたら、編集委員会にご一報頂ければ幸いです。(記 高田)

編集委員 高田雄京、飯久保正弘、戸田孝史、小山重人、小関健由

東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
 TEL/FAX：022-717-8318
 URL：http://www.ddh.tohoku.ac.jp/ E-mail：newsletter@ddh.tohoku.ac.jp



この印刷物は、環境にやさしい大豆油インキで印刷しています。